

ReadNotify のご紹介

1.	READNOTIFY の価値	2
1.1	文書のセキュアな管理	2
1.3	安全、確実、便利なメールの利用	3
2	機能のご紹介	4
2.1	開封通知	4
2.2	開封履歴	6
2.3	文書追跡	6
2.4	印刷コピー禁止	7
2.5	確実な送達	7
2.6	消えるメール	7
2.7	認証 + 送信証明	8
3	各機能の使い方	8
4	ASP サービスのご利用	9
5	アプリケーション案	11
5.1	文書のセキュアな管理	11
5.2	業務の効率化	12
5.3	フォレンジック対応	12
5.4	有料コンテンツ、セキュアな情報の確実な配信	13
5.5	アウトバウンドメール・セキュリティーシステム	14
5.6	自動メール、文書追跡管理	14
5.7	ダイレクトマーケティング、メールによる各種調査	15
6	提供形態	15
7	ビジネスモデル	16
7.1	アフィリエイト	16
7.2	代理店	16
7.3	チャンネルパートナー	16
8	READNOTIFY.COM 動作環境	16

1. ReadNotify の価値

メールや文書はビジネスや個人の主要なコミュニケーション手段になっています。これらの手段には便利な反面、情報漏洩などのセキュリティ上の問題などがあります。ReadNotify の機能はおおまかに言って、

i . メールや文書を、何時、何処で、誰が、どの様に開封、閲覧したかを、ほぼリアルタイムで報告する

ii . メールによるコミュニケーションを、より安全で信頼できるものにする各種サービス

です。お客さまは ReadNotify をお使い頂くことにより以下の分野で効果を上げて頂けます。

i . 文書のセキュアな管理

ii . 業務の効率化

iii . 高度なメールによるコミュニケーション

1.1 文書のセキュアな管理

個人情報保護法、金融商品取引法（日本版 SOX 法）新会社法等の施行により、企業には個人情報を含む 文書の流通を厳格に管理し、コンプライアンスに準拠した情報管理体制を構築する様求められています。

しかし、情報漏洩によるトラブルが後を絶ちません。情報漏洩事件が発生した場合は迅速に原因を把握し、漏洩先を特定し、情報を回収し、監督官庁への報告やメディアへの発表などを行う必要があります。個人情報漏洩による経済的被害は無視できません。

その為企業は様々なセキュリティ対策を導入しています。ファイアウォール機能の強化や、イントラネット内の操作ログの収集と報告、管理者による監視機能の強化などがその主なものです。しかし、この対策はイントラネット内でしか有効ではありません。

企業は日常業務として委託先企業、顧客、イントラネット外にいる従業者に情報を提供しており、彼らに提供した情報の流通も同時に管理する必要があります。メールに添付して社外に送る、契約書や提案書や技術資料などの重要文書が誰の手に渡って、どの様に読まれているか、を把握できることは機密情報の管理、監督官庁への報告、という点からとても重要といえます。

また、組織内部の過失や悪意による情報漏洩を完全に防止することはできません。例えば、Winny の様な情報共有システムによる情報漏洩事件は依然として続いています。更に、従業者や業務委託等に自社所有の PC を貸与している場合、企業はこの様な PC から発生する情報漏洩のリスクにも対応する必要があります。

ReadNotify はこれらの問題の解決に貢献します。詳細は「[5.1 文書のセキュアな管理](#)」をご覧ください。

在席情報がインスタントメッセージや携帯電話で分るようになり、業務効率化ツールとして好評です。業務の効率化はこの様な状況情報を共有することによって推進できる、という事実があります。業務遂行に必須なメールも、その開封状況が分れば、送信者はそれを基に次のステップに進むことができ、業務遂行の効率が向上します。

ReadNotify を使えばメールや文書の開封状況や開封履歴がほぼリアルタイムで分かります。

また、ワークフローを使って定型業務を処理することは効果がありますが、これは社内（イントラネット内）でしか有効ではありません。その為に、例えば顧客に申請書や証明書をメールで送り、顧客から返答をもらい、それを基に登録を行う様な業務では、顧客にメールを送るまでのワークフローと、顧客から返答を受取ってからのワークフローに不連続が発生します。また、ワークフローで定義した一連の作業単位にはその作業を行う担当者が割当てられますが、担当者の処理が遅れた為にワークフロー全体の処理が停滞したり停止することがあります。

ReadNotify はこれらの問題の解決に貢献します。詳細は「[5.2 業務の効率化](#)」をご参照ください。

1.3 安全、確実、便利なメールの利用当然と思って日常使っているメールにも以下のような問題があります。

- i. メールは、受信者が本当にそのメールを読んできたかどうか分かりません。メールが相手のINBOXに入っても読まれずに消去されてしまうことがあるからです。メール受信者が Yes/No で応える開封通知機能はありますが、ほとんど無視されています。そこで、相手に電話をかけてメールを読んだかどうかを確認しようと思いますが、相手がなかなかつかまらないことがあります。
- ii. 「極秘の内容なので誰にも転送したりしないで欲しい」とメールで言っても、誰かに転送されてしまうことがあります。メールの内容をプリントされ、それが出回ってしまうこともあります。
- iii. 昔送ったメールを持ち出されて証拠として使われてしまうことがあります。
- iv. インターネットはメールが受信者に確実に届くことを保証していません。郵便には書留郵便や内容証明郵便があるのに、メールにはそれがありません。そのために、契約書などの重要事項をメールで通知し、相手は実際それを読んでも、「受取っていない」と言われると、それに反論することは困難です。
- v. メールを送った後、相手がそれを見る前にそれを取消したいと思ってもその方法がありません。

新規パスワードの通知の様な機密情報やメンバー限定の有料情報などをメールで提供している場合、これらの問題の為にビジネス上のトラブルが発生しかねません。情報提供側は送ったメールを相手が確実に読んでいることを確認する必要があります。更に、メンバー未登録のメールアドレスに有料情報が渡らない様に、または渡ったにしても、誰にその情報が渡ったかを知り得る必要があります。

メールはそれを作成し、送信した人の著作物だ、という考え方があります。著作物の流通を管理できなけれ

ばならないはずですが、それはメールを受信した人に全面的に依存するしかない、というのが現実です。

従って、以下のシステムが求められることとなります。

- i. メール、文書が今どういう状態か(受信者に届いたか、INBOXに入ったか、読んだか)が分かる
- ii. メール、文書が何時、何処で、誰が、どの様に読んだかが分かる
- iii. メール、文書を受信者が読んだことが確実に分かる
- iv. メールの印刷禁止、コピー禁止
- v. 送ったメールが後日証拠として勝手に使われない
- vi. メールを送信した事実、受信者が読んだ事実を客観的に保証し、「メールを受取っていない」と受信者に言わせない
- vii. メールによるダイレクトマーケティングで、受信者の反応を正確に把握したい

ReadNotify はこれらのソリューションの実現に貢献します。詳細は「[5.3 フォレンジック対応](#)」以下をご参照ください。

2 機能のご紹介

ReadNotify の主な機能は以下の通りです；

- **開封通知**；送信したメールや文書を受信者が開封した年月日時分秒、経過時間、場所、メールの転送、転送時刻、メール内の URL のクリック、開封環境をほぼリアルタイムにメールなどで報告します
- **開封履歴**；2 回目以降、現在に至るまでの開封履歴を報告します
- **添付文書追跡**；メールに添付して送った文書(MS Word, Excel, PowerPoint, OLE, PDF ファイル)を PC で開き、読んだ履歴を報告します。報告内容はメールとほぼ同じです。記憶媒体にコピーし、オフラインで別の PC に移したファイルを開いた場合も同様です。
- **印刷コピー禁止**；受信者がメールを印刷、コピーできない様にします
- **確実な送達**；受信者がメールを読んだことを報告します。メールが INBOX に入ったまま読まれずに消された場合の対応が可能になります。このメールは送信後でも未開封ならメール送信をキャンセル
- **消えるメール**；受信者が一定時間読んだら自動消滅するメールを作って送信できます
- **認証 + 送信証明**；送信者によるメール送信、受信者によるメール開封を第三者の立場から証明し保証します。ReadNotify はこのメールを暗号化し、電子署名し、タイムスタンプを付け、識別用の連番をつけて相手に送信します。この電子認証はフォレンジック対応にお使い頂けます。
- **統計処理**；開封履歴情報は外部に取り出して統計処理ソフト、DBMS など独自処理できます

2.1 開封通知

受信者がメールや文書を開封した直後に開封通知を送信者に送ります。メールの開封年月日時分秒、経過時間、最寄りのメールサーバーの場所が地図付で表示してあります。地図はクリックすると拡大表示できます。開封通知メールの例を以下に示します。

開封通知: 開封通知メールの試験


日時: 05/01/10 15:44:26 東京(標準時)
 FROM: kenconsulting@aol.com.ReadNotifv.com
 Reply-to: PleaseDon'tReplyToThis@readnotifv.com
 TO: kenconsulting@aol.com
 インターネットメール<ヘッダーを見る>

宛先	kenconsulting@nifty.com
差出人	hondak@kenconsul.com
件名	開封通知メールの試験
送信日時	2005/01/10, 15:33:26pm 'Asia/Tokyo' time
最初の開封	2005/01/10, 15:33:45pm +09:00 (81%) , Japan

追跡詳細

開封	2005/01/10, 15:33:45pm (UTC +09:00) - 送信後経過 19秒
ロケーション	Japan (81% 可能性)
開封時の環境	1222-150-14-149.s04.a013.ap.plala.or.jp (222.150.14.149:2834)
言語	受信者のPC: ja (日本語)
ブラウザ	受信者Mozilla/4.0 (MSIE 8.0; WinNT 5.1; SV1; .NET CLR 1.1.4322)が使用
最後のログ	2005/01/10, 15:34:14pm (UTC +09:00) - ログデータはメールが少なくとも 29秒 (おおよそ)間アクション(操作)なしと示しています。

要約 - 報告日時: 2005/01/10, 15:44:03pm (UTC +09:00) - 送信後経過 10分37秒
 合計開封 1回、1 受信者数

Click  をクリックしてください。この確認情報は <http://www.ReadNotify.com> が2005/01/10, 15:44:03pm (UTC +09:00) (10-Jan-05 06:44:03 GMT世界標準時)に作成し、送信しました。時間は 'Asia/Tokyo' 時間に変換してあります。元のメールの送信者の参照IDは <004001c4f6de4a38de30f0401a8c0@HONDAK> であり、ReadNotify.com は受信者の装置の bb4993f74e968b93ac7d172d2da2093 ここでは、メッセージが表示されたことだけを示します。(読まれたり理解されたことを必ずしも意味しません。)を参照しています。ご自分の設定(メールやICQやショートメッセージやボケベル等に開封通知送るか送らないかの設定を含む)は ReadNotifyのWebサイト [ReadNotify Webサイト](http://www.ReadNotify.com) で変更して頂きます。

印刷: URLのクリック試験 - メッセージ (HTML 形式)

送受信(B) 全員へ返信(L) 転送(W) 印刷(P) ツール(T) アクション(A) ヘルプ(H)

差出人: Hondak@KenConsul [hondak@kenconsul.com] 送信日時: 05/01/10 (月) 11:15
 宛先: 'kenconsulting@hotmail.com'
 CC:
 件名: 印刷: URLのクリック試験

以下のURLをクリックしてください。
<http://www.readnotifv.com>
 以上

***** www.ReadNotify.com 書留メールサービス *****
 メールを送った後の不安にお応え
 メール support@kenconsul.com (日)
support@readnotifv.com (5)
 携帯 080 3204 7343

メールの中のどのURLをクリックしたかも分ります。左下のメール中のURL をクリックした情報が右下の開封レポートに示してあります。

追跡詳細

開封	2005/01/10, 11:24:02am (UTC +09:00) - 送信後経過 9分3秒
ロケーション	Japan (81% 可能性)
開封時の環境	1222-150-14-149.s04.a013.ap.plala.or.jp (222.150.14.149:1476)
言語	受信者のPC: ja (日本語)
クリックされたリンク	http://www.readnotifv.com/ (2005/01/10, 11:28:46am (UTC +09:00)), http://www.readnotifv.com/ (2005/01/10, 11:32:33am (UTC +09:00))
ブラウザ	受信者Mozilla/4.0 (MSIE 6.0; WinNT 5.1; SV1; .NET CLR 1.1.4322)が使用
	http://by101fd.bay101.hotmail.msn.com/cgi-bin/getmsg?msg=0BA7D8B7-9966-4D6A-A2AC-80E036A408F9&start=0&len=8821&imgsafe=http://by101fd.bay101.hotmail.msn.com/cgi-

2.2 開封履歴

2 回目以降のメール開封履歴情報は ReadNotify の Web サイト (<http://www.readnotify.com>) にアクセスして見て頂きます。開封情報はメールが開封される度にその情報を追加して更新します。従って、メール送信後、1 週間や 1 ヶ月の間にメールがどの様に読まれたかを知ることができます。

ロケーション	Japan (81% 可能性)
開封時の環境	1222-150-14-149.s04.a013.ap.plala.or.jp (222.150.14.149:1668)
言語	受信者のPC: ja (日本語)
ブラウザ	受信者Moz4.0 (MSIE 6.0; WinNT 5.1; SV1; NET CLR 1.1.4322)が使用
参照	http://by101fd.bay101.hotmail.msn.com/cgi-bin/getmsg?msg=0BA7D8B7-9966-4D6A-A2AC-80E036A408F9&start=0&len=8821&msgread=http://by101fd.bay101.hotmail.msn.com/cgi-bin/getmsg?msg=0BA7D8B7-9966-4D6A-A2AC-80E036A408F9&start=0&len=8821&msgread=
最後のログ	2005/01/10, 11:43:35am (UTC +09:00) - ログデータはメールが少なくとも 23秒 (おおよそ)間アクション (操作)なしと示しています。
再開封しました。	
開封	2005/01/10, 12:30:43pm (UTC +09:00) - 送信後経過 1時間15分44秒
ロケーション	Japan (81% 可能性)
開封時の環境	1222-150-14-149.s04.a013.ap.plala.or.jp (222.150.14.149:2441)
言語	受信者のPC: ja (日本語)
ブラウザ	受信者Moz4.0 (MSIE 6.0; WinNT 5.1; SV1; NET CLR 1.1.4322)が使用
参照	http://by101fd.bay101.hotmail.msn.com/cgi-bin/getmsg?msg=0BA7D8B7-9966-4D6A-A2AC-80E036A408F9&start=0&len=8821&msgread=
最後のログ	2005/01/10, 12:31:04pm (UTC +09:00) - ログデータはメールが少なくとも 21秒 (おおよそ)間アクション (操作)なしと示しています。
要約 - 報告日時: 2005/01/10, 14:58:32pm (UTC +09:00) - 送信後経過 3時間43分33秒	
合計開封 3回、1 受信者数	
経過期間 開封回数の合計は3回、開封時間の合計は09分33秒	

2.3 文書追跡

文書(MS オフィス, OLE, pdfファイル)をオープンし、読んだ履歴を報告します。報告内容はメールとほぼ同じです。

ReadNotify はこの文書が、作成者以外の PC でオープンされた時にその情報を教えてくれます。重要な技術文書、契約書、提案書などはこの追跡機能を付加しておくことと不当な参照を検知できます。

このような文書は ReadNotify で一旦指定して保存しておけば、後でメールに添付して送ったり、記憶媒体にコピーしてオフラインで持ち運んでもオープンした時点でその状況が分かります。Winny 等による情報漏洩対策になります。

使い方は、(1)メールに文書を添付して送る方法と、(2)文書に手動で指定する、2 通りの方法があります。

前者は右のオプション指定画面

で必要な項目をチェックし、後は

添付PDF文書の追跡

- お客さまがメールに添付して送るPDFファイルを追跡したいならこのボックスをチェックしてください。文書の追跡機能を使うか使わないかここで指定してください。この機能を使う、使わないはここで設定します。(上の「お好みのトラッキング指定」ボタンとは関係ありません)
- 文書の追跡については、ここを参照してください。

あなた様が次に追跡可能な文書を送る時、弊社からあなた様宛の文書追跡に関するリマインダー(注意)がご希望ならここをチェックしてください(お薦め)。

添付した MS Word 文書を追跡します

- 添付した MS Word 文書を自動追跡するにはここをチェックしてください。この機能を使う、使わないはここで設定します。(上の「お好みのトラッキング指定」ボタンとは関係ありません)
- 文書の追跡については、ここを参照してください。

お客さまが次に追跡可能なMS Word文書を送る時、弊社からあなた様宛の文書追跡に関するリマインダー(注意)がご希望ならここをチェックしてください(お薦め)。

添付した MS Excel 文書を追跡します

- 添付した MS Excel 文書を自動追跡するにはここをチェックしてください。この機能を使う、使わないはここで設定します。(上の「お好みのトラッキング指定」ボタンとは関係ありません)
- 文書の追跡については、ここを参照してください。

お客さまが次に追跡可能なMS ExcelPowerPoint文書を送る時、弊社からあなた様宛の文書追跡に関するリマインダー(注意)がご希望ならここをチェックしてください(お薦め)。

添付した MS PowerPoint プレゼンテーション文書を追跡します

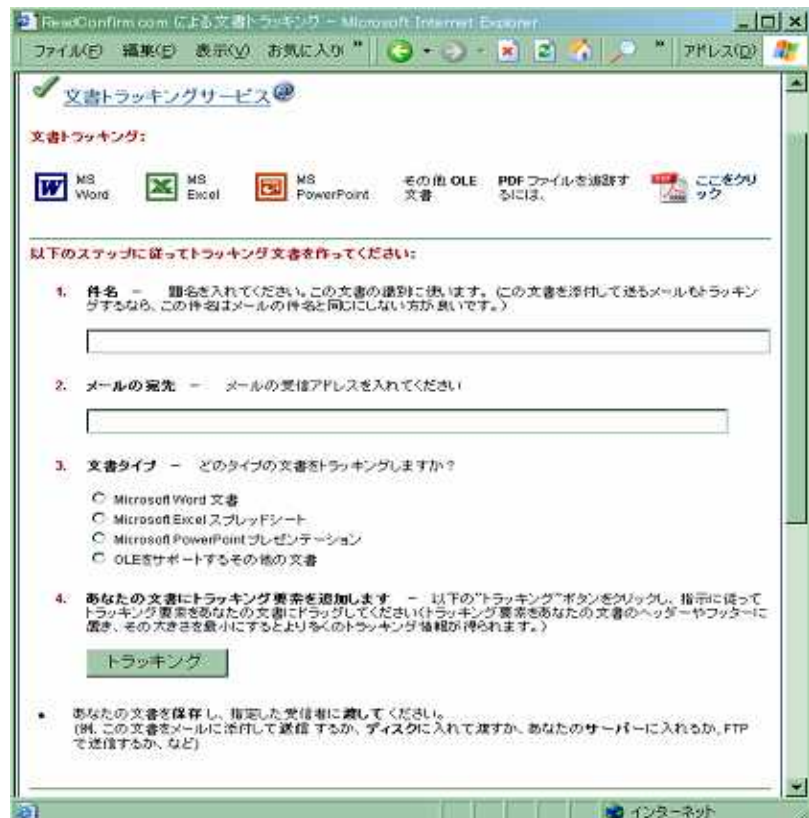
- 添付した MS PowerPoint プレゼンテーション 文書を自動追跡するにはここをチェックしてください。この機能を使う、使わないはここで設定します。(上の「お好みのトラッキング指定」ボタンとは関係ありません)
- 文書の追跡については、ここを参照してください。

お客さまが次に追跡可能なMS ExcelPowerPoint文書を送る時、弊社からあなた様宛の文書追跡に関するリマインダー(注意)がご希望ならここをチェックしてください(お薦め)。

通常通りに文書を添付したメールを送信します。

後者は次頁右画面の文書追跡サービスのページで追跡する文書を識別する文字列(メールの件名に相当)を入れ、「トラッキング」ボタンを押します。するとウインドが開き、追跡に使うオブジェクトのマークがその中にあります。このマークを追跡したい文書の適当な場所にドラッグ/ドロップし、その文書を保存します。このマークは形状を最小化して使うことをお勧めします。

この方法はpdfファイルには使えません。



2.4 印刷コピー禁止

受信者がメールを転送、印刷、コピーできない様にします。情報漏洩はPCからよりも紙に印刷したものが不当に出回ることによって発生する方が多いという声もあります。

秘匿性の高い情報をメールで送信する場合は、そのメールを印刷、コピーできない様にするとセキュリティを高く保てます。

2.5 確実な送達

メールは INBOX に入ったまま読まれないで消されてしまうことがあります。このサービスを使うと、受信者は INBOX 内のメールをクリックしてメールを読むということをして始めてメールの本体を読むことができます。それまでは、ReadNotify はメールの開封状態を未開封として報告します。ユーザはその開封状態をチェックし、相手がメールをちゃんと読んだかどうかをチェックできます。

このメールは送信後でも未開封ならメール送信をキャンセルします。

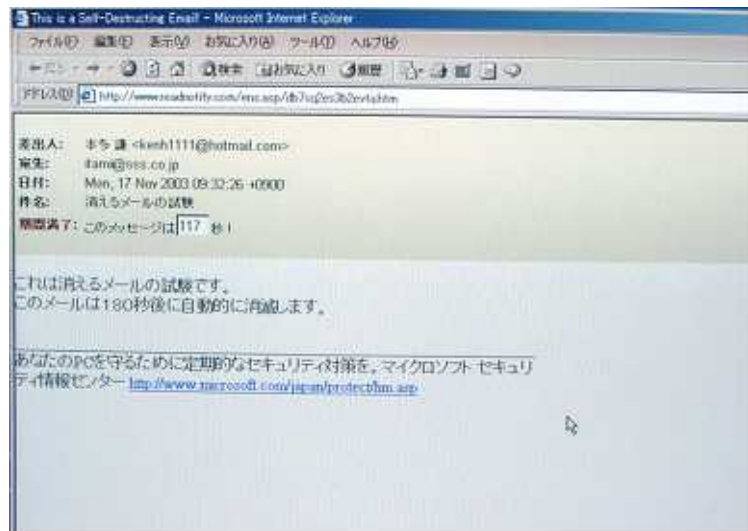
2.6 消えるメール

受信者が一定時間読んだら自動消滅するメールを作って送信できます。メールは通常、受信者が消去



するまでは永遠に残ります。後日、証拠として提示されると困る内容や、デリケートな内容、受信者にだけそっと伝えたい内容をメールで送る場合は、消えるメール(自己消滅メール)で送ると、後で問題が発生する確率を低くできます。

使い方は簡単です。メールを送信する前に、受信者にメールを読ませる時間(分、秒、最大 99 分まで)を指定し、消えるメールを指定してメールを送信します。



受信者はそのメールを開封すると、そのメールが消えるメールであることを知らせるメッセージを受取り、OK ボタンをクリックしてメールの本体を受信します。

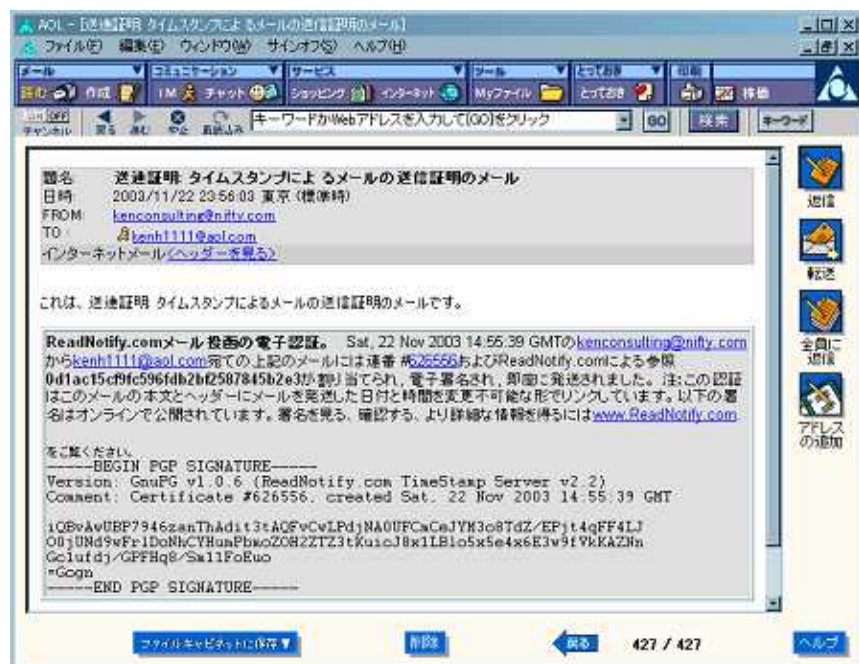
メールのウインドにはメールが読める残存秒数が表示され、それがゼロになると画面がクリアされます。同じメールを再度開封してもメールの本体は表示されません。

2.7 認証 + 送信証明

送信者によるメール送信、受信者によるメール開封を第三者(ReadNotify)の立場から証明し保証します。

ReadNotify はこのメールを暗号化し、電子署名し、タイムスタンプを付け、識別用の連番をつけて相手に送信します。この電子認証はメールの一部として受信者に届けられます。

このメールの送達証明は、ReadNotify サイトにアクセスし、連番を指定することによりいつでも参照でき、第三者に対するメール送達の証拠として提示して頂くことができます。



3 各機能の使い方

ReadNotify サービスは、インターネットの標準的な仕様で動くメールシステムであればほとんどのメールシステムでお使い頂けます。また、メールの受信者側の PC には、特別なソフトのインストールなどは必要ありません。

ReadNotify は多くの機能を持っているので、場合に応じて必要な機能を指定してお使い頂けます。インターネットでのメールの環境に合わせて詳細な設定ができますが、技術的知識がなければ意味を理解できない設定もあります。そこで、代表的な設定の組み合わせのセットを既定値として指定できるようになっています。これにより、技術に詳しくないユーザにも簡単にお使い頂けます。また、メール受信者の環境は多様で常に変化しているため、意図した通りの情報が提供できない場合もあります。ReadNotify 社はこのような技術と市場の変化に柔軟に対応する努力を継続しています。

ReadNotify を実際に使う方法には以下の 2 通りがあります。

- (i) メールを送信先アドレスの末尾にしたい機能名と “.readnotify.com” を付け、メールを送信します。この詳細について



は ReadNotify の Web サイトをご参照ください。

- (ii) アクティブトラッカー プラグインをお使いの PC にインストールし、そのメニューからしたい機能を指定し、通常通りにメールを送信します。

プラグインは ReadNotify の Web サイトから無料でダウンロードし、インストールできます。プラグインをインストールすると、封筒の形のアイコンが PC 画面のツールバーに現れ、そのアイコンをクリックするとメニューが現れます。この中の使いたい機能を選択(チェック、またはピンを立てる)し、あとは通常通りにメールを送信します。




このメニューは代表的な Web メールメール作成ウインド上に自動的に表れます。

4 ASP サービスのご利用

- ReadNotify は ASP サービスとして提供しています。このサービスは ReadNotify のサービスサイト (URL <http://www.readnotify.com>) にアクセスし、御自分のメールアドレスをユーザ ID として登録すればそのままお使い頂けます。
- この ASP サービスは先ず無料の試用サービスとしてご利用頂き、サービスに納得して頂いてから有料ユーザになって頂けます。
- 一旦登録したユーザデータはずっと保存しておりますので、サービス利用を中断した後も同じユーザ ID とパスワードを入力すればシステムに入り、昔追跡指定したメールの現在までの追跡情報が分ります。但し、新規メールの追跡はできません。この時点で加入登録して頂ければ、サービスをそのままお使い頂けます。
- 複数のメールアドレスから送信したメールを1ユーザIDのもとで、まとめて管理できます。
- 友人や知人にこのサービスを薦め、その方がユーザ登録をした時に紹介者の登録メールアドレスを入力すれば、紹介者は1ヶ月無料でサービスをお使い頂けます。


ReadNotify のメニュー画面を以下に示します。






アクティブトラッカー プラグイン

- 無料のアクティブトラッカー プラグインをあなたのPCにダウンロード、インストール




トラッキングオプションの直接指定(アクティブトラッカー プラグインをお使いでない場合)

- 使う機能をメール送信時にマニュアルで選択します




データのエクスポート

- トラッキング履歴をスプレッドシート、テキスト、データファイルにエクスポートします



高度なトラッキングテクニック

- **ご注意** 技術に詳しい方だけお使いください(トラッキングを困難にしてしまうことがあります)
- あなたのメールのトラッキングに使う**設定**を編集してください



サービスのご購入について

- ReadNotifyサービスの**新規加入**、更新、メニュー変更、解約をします
- メールの利用可能数の制限を上げます

ReadNotifyのアフィリエイトアカウントとして登録、管理

ログアウト

ReadNotifyについて 質問はこちらどうぞ: support@readnotify.com | [English Site](#)
© ReadNotify.com Ltd 2000-2003. All Rights Reserved. [利用規約](#) [プライバシーーステートメント](#)

5 アプリケーション案

5.1 文書のセキュアな管理

ReadNotify は以下のシステムの実現にお使い頂けます。

- 社外(インターネット)に送信する重要文書やメールの開封、閲覧のログをリアルタイムで捕捉し、収集し、解析し、異常を発見した時は自動的に迅速に管理者にメールや電話で通知すると共に管理画面にて現状と履歴の詳細を表示する。
- 社外の従業者や業務委託等に貸与し、社外(イントラネット外)で使っている自社所有のPCで作成した文書やそのPCから送信するメールに対しても同様の措置をとる。
- 会社内の文書開示規定に違反して文書をコピーまたは閲覧した場合、直ちにその文書と閲覧者を特定し、文書の回収、抹消と閲覧者に対する処分を含む対策が取れる。
- 情報漏洩が発生した場合、
 - 漏洩源と経路を特定し、原因を究明し、他の漏洩リスクに対処する。
 - 情報の漏洩先を特定し、漏洩した情報の回収や抹消、補償先を特定する。
 - 漏洩事件の公表に際し具体的対応策を明示し、イメージ損失を最少に留める。他。
- 監督官庁に対する報告書資料を最少の工数で作成できる。
- これらは既存のシステムと柔軟に統合でき、且つ管理工数を削減し、管理者の負担を軽減するものである。

5.2 業務の効率化

メールや電子文書で通知、納品、連絡を行う業務では ReadNotify を使って、送信したメールや文書の扱状況をほぼリアルタイムで知ることができ、トラブル対応が的確に行えるようになります。

用例案としては以下が挙げられます；

- 公的機関、銀行、証券、信販企業などでの、利用明細等の顧客通知
- オンライン販売、オンラインサービスなどのパスワード通知、購買確認、出荷通知、支払確認
- 受発注情報、入札応募等の情報の送受信、注文受書の発送
- 時差のある、世界規模のプロジェクトの推進
- 秘匿性の高い個人情報(履歴書など)、人事情報(人事異動、採用/不採用など)の文書のセキュアな管理、同情報のメールでの配信管理
- 契約書、技術文書などのセキュアな情報の配布、伝達
- 購買に関する情報開示、提案書、見積り提出、評価の通知
- 配送通知を行い、荷物を受取る為の在宅時間を事前に調整
- 在宅クリエイター、ライター、Web 制作者、翻訳者などの外部業務委託先がメールでの納品状況を確認

また、複数のワークフロー間の不連続を埋め、複数のワークフローを統合する以下の用途にお使い頂けます。

- 社外に送信した情報(メール、文書)の処理状況をリアルタイムに捕捉し、2つのワークフロー間の不連続を解消し、有機的に連携する様にする。
- 重要文書やメールが社内(イントラネット内)でどう流通しているかをリアルタイムで捕捉し、停留しているワークフロー内の作業単位を特定し、担当者に注意を促す

5.3 フォレンジック対応

郵便には書留郵便や内容証明郵便があり、相手が郵便を確かに受取ったことを第三者が保障するシステムが整っています。メールは、重要な情報を伝達するツールとして広く使われていますが、これに相当するシステムが整備されているとは言えません。その為に、重要な契約書、証明書、通達をメールで送った後に、そのメールを「送った」「受けてない」、「読んだ」「読んでない」のトラブルが発生し、法廷での論争になることがあります。

そこで、重要な公的通知、商取引の連絡、IDやパスワードの通知の様なメールは、その送信や開封を第三者が証明し、保証する環境で送信するとトラブルが発生した時に有利です。

ReadNotify の「認証 + 送信証書」機能を使って送ったメールは、ReadNotify 社がその送信と開封の事実を ReadNotify が第三者としての立場から認証し、保障します。

ReadNotify の「認証 + 送信証書」機能を使ってメールを送ると、ReadNotify はメールの終りに、そのメールがインターネット上に送信された日時、メールに与えたユニークな連続番号(連番)、メール自体のユニークな暗号識別番号を付加情報としてメールの末端に付加します。更に、このメール全体(通常ヘッダーも含む)とメールの末端に付けた付加情報全体をデジタル署名します。ReadNotify はこのデジタル署名付きの認証メールを受信者のメールサーバに送り、そのコピーを“送達証明”の添付資料として送信者に戻します。

- 当該メールがインターネット網を通して送信された日付と時間の証拠として
- 当該メールのヘッダーと本体が送信以降書き換えられていないことの証拠として
- 当該メールがコンピュータ画面上に表示されたことの証拠として。ここでは当該メールを(コンピュータプログラムではなく)人間である受信者が読んだ証拠、及びその行為を行ったおおよその場所、日時、使用したメーラーまたはブラウザに関する情報も提供します

この機能は、他のアプリケーションと統合して使うと効果的です。例えば、メールを自動送信するアプリケーションに組み入れ、ある条件に合うメールは自動的に本機能を付加して送信することができます。

5.4 有料コンテンツ、セキュアな情報の確実な配信

有料コンテンツをメールやファイルで配信するサービスプロバイダは、そのコンテンツがユーザに届き、読まれたことを確認し、責任を果たす必要があります。また、パスワードなどの個人情報やメールで送信する場合、受信者がそのメールを読んだことを確認し、それを証明できなければ、連絡不備として責任を問われる可能性があります。

この対象となるのは、有料コンテンツ配信をメールや添付ファイルで配信している企業や、重要な情報(顧客番号、パスワードなど)をメールで配信するサービス事業者などでしょう。

期待できる効果として以下が挙げられます；

- お客さまから料金を頂いてメールや CD などで配信するコンテンツを送り放しではなく、お客さまに確実に送達したことを確認できる方法で配信する、という企業の責任を果たせます
- パスワードなどのプライベートな情報配信は送達や開封を確認できる方法で送ることにより、後でお客さまから「受取っていない」というクレームが来たときに的確に対応できます
- 配信されたコンテンツを購読ユーザ以外の未契約者が無断で開封した場合、その事実が分ります。未契約者に注意を促したり、新規購読契約を勧めたり、という対応が取れます
- 特に通信教育の場合、
 - 資料の配布、問題、解答をメールや CD などで送った場合、その開封動向や資料のオープン状態がわかり、より詳細な指導が可能。(添付資料がいつ、どの様に読まれたかが分ります)
 - 教材や資料の配布、問題、解答を確実にメールで送受信できます
 - 添付資料(教材、通知、テストなど)その開封動向や資料のオープン状態がわかり、より詳細な指

導が可能。(添付資料が試験問題だった場合、解答時間が正確に分かるのでより正しい指導ができます)

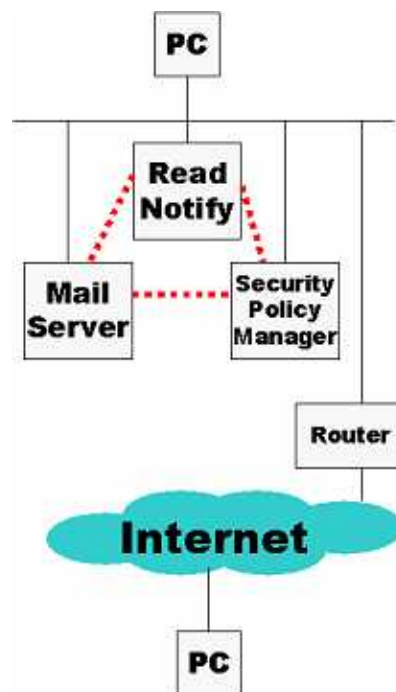
5.5 アウトバウンドメール・セキュリティーシステム

個人情報保護法の施工に伴い、様々なセキュリティー対策を導入していますが、その多くはイントラネットの中のクライアントのログを記録することによって情報漏洩の抑止効果を狙っています。しかし、このようなシステムはイントラネットのゲートウェイから一旦外に出してしまった情報に対しては無力です。業務がネットワーク化している現在、その効果には限度があります。

研究所や顧客情報を扱う部署では社外秘情報の流出に対する厳格な監視体制が要求されます。企業や団体のセキュリティー責任者はイントラネットシステムから発信したメールの流通を把握しておくことと機密情報の漏洩問題が発生した時により的確な対応ができます。

例えば、ReadNotify のシステムをイントラネットシステムの一部として右図のような形でお使い頂けます。

- (i) メールサーバーはセキュリティーポリシーエンジンの判断基準に従い、該当するメールを ReadNotify サーバに転送します。
- (ii) ReadNotify サーバはそのメールを追跡指定し、インターネット網に送信します。
- (iii) ReadNotify サーバはメールの追跡情報を機密情報として蓄積します。
- (iv) セキュリティー担当者は追跡情報を参照、必要に応じて加工し、使用します。



5.6 自動メール、文書追跡管理

情報漏洩は多くの場合、組織内の悪意ある者の意図的な行為として発生します。外部からの不当なアクセスを防御したり社内のアクセスを制限するツールは豊富ですが、組織内の意図的な、または不注意による情報漏洩に対する有効なツールは希少です。

PC を所有し、利用者に貸与している企業や団体は、その様な PC から発信するメールや PC で作成する文書に対する管理義務があります。貸与している PC から外部に発信したメールや文書の流通を管理できなければ、機密情報の漏洩に対する嫌疑が発生した場合の確かな説明ができず管理責任を果たしているとは言いきれません。

ReadNotify の機能を使えば、管理下の PC で作成したメールを全て自動的に秘匿下に追跡できます。同様に、管理下にある PC で作成した文書(MS Office文書、OLE、pdfファイル等)の流通状況もすべて自動的に秘匿下に追跡できます。組織のセキュリティー管理者はその追跡情報を機密情報として厳重に保管蓄積

し、必要に応じて参照して頂けます。

詳細については、support@kenconsul.com にお問合せください。

5.7 ダイレクトマーケティング、メールによる各種調査

メールはダイレクトマーケティングの最も効果的な媒体として使われており、その為の色々なサービスが開かれています。このようなサービスは本格的、大規模ユーザを対象としたものが多く、サービスの利用方法を習得する必要があったりします。

ReadNotify のサービスは中小規模のメールベースのマーケティングの手段として e-メールマーケティング、メルマガの発行、各種調査に、手軽にお使い頂けます。例えば、この為に SOHO が必要なのはインターネットに接続し、メールが使える自社 PC だけです。利用方法は、メールの送信時に ReadNotify を使うことを指定するだけです。

これによって、会員やモニターがメールを、どこで、何時、何回、何分(秒)間読んだか、メールの中のどの URL をクリックしたか、転送したかなどを知ることができます。これらの履歴情報はファイルとして取り出し、Excel などの解析/発表用ソフトを使って報告書を作れます。この部分を一連のマーケティングのワークフローに組み入れてお使い頂けます。

ReadNotify システムは既存のダイレクトマーケティングシステムのメール追跡機能の強化用にもお使い頂けます。

特に、ReadNotify は Web メール(Hotmail, Yahoo メールなど)を追跡できる唯一のシステムとして効果を発揮します。また、企業のイントラネットシステム内でのメール開封やオフラインでのメール開封に対する強力な追跡能力を持ち、大手のダイレクトマーケティングシステムのようにアンチスパムの対象にはなっていません。

6 提供形態

ReadNotify のシステムは以下の形でお使い頂けます

- ASP サービス; <http://www.readnotify.com> にアクセスし、加入料を払ってお使い頂きます。サービスは年間基本サービス、年間プライムサービス、月間プライムサービスの 3 本立てで、各々年間 2,000 メールまで、月間 350 メールまでお使い頂けます。 加入期間中にこのメール数を使い切らなかったら、未使用分は次の加入期間まで持ち越せます。加入期間中に使い切ったら、お好きなメール数分だけ追加購入して頂けます。支払いはクレジットカードが基本ですが、銀行振り込みなど、柔軟に対応しております
- イントラネットシステムとして; サーバに本システムを入れ、企業やコールセンターの設備の一部として、カスタマイズしてお使い頂けます
- ソフトウェアシステムの一部として; ReadNotify のソフトウェアは複数の機能モジュールから構成され

ています。特定の機能モジュールを取り出し、既存のソフトウェア(パッケージ)の一部としてご採用頂きます

- 以上につきまして、詳細は support@kenconsul.com までご相談ください

7 ビジネスモデル

7.1 アフィリエイト

ReadNotify のアフィリエイトに登録し、ReadNotify の ASP サービスの加入者を新規に獲得して頂きますと、その利用料金の20%をコミッションとして、毎月、最長5年間お支払いします

アフィリエイトには誰でも登録して頂けます。登録時にはReadNotifyから最初のアフィリエイト名を発行します。それ以降はご自分の好きなアフィリエイト名を登録(複数可)してお使い頂けます。例えば販売キャンペーンごとにアフィリエイト名を発行し、各キャンペーンプログラムの成果を知ることができます。ご自分の最新の販売実績は ReadNotify.com サイトで確認できます

ReadNotify はアフィリエイト名を組み込んだ URL、バナー、プラグインなどを提供します。これらを使って ReadNotify にログインしたユーザが利用料金をお支払い頂くと、アフィリエイトシステムは自動的にそれを当該アフィリエイトの販売成果として記録します

7.2 代理店

代理店は、ご自身がアフィリエイトとして登録して頂き、新規加入者を獲得して頂く他に、ご自身の配下のアフィリエイトを開拓して頂けます。ReadNotify はご自身を含むアフィリエイトの売り上げの10%をコミッションとして代理店にお支払いします。従って、ご自身のアフィリエイトとしての分を加えれば30%のコミッションになります

代理店は ReadNotify のサービスに代理店独自のサービス(電子メール アドオン ビジネスなど)を統合させたサービスを提供して頂くこともできます。この場合、代理店独自のドメイン名でサービス展開して頂けます。そのサーバのホスティングや運営は全て ReadNotify が提供します

7.3 チャンネルパートナー

チャンネルパートナーは ReadNotify システムをOEMで購入し、自社のソリューションや製品の一部として販売して頂けます。例えば、自社ソフトウェア製品の機能追加モジュールとして、企業顧客のイントラネットシステムの一部として、自社ASPサービスの1機能/サービスとして、などにお使い頂けます。詳細は KenConsulting Inc.にご相談ください

8 ReadNotify.com 動作環境

- Unix ベースサーバ (RedHat Linux、他のUNIX/ハードウェアも可)

- データベース製品(Oracle 推奨, MySQL なども可).
- ウィルススキャン製品(McAfee Virus 推奨)
- Apache Web server 及び mod_perl

注:ご質問はお気軽に support@kenconsul.com へお寄せください。
KenConsulting 社は ReadNotify.com の総代理店です。

以上